

団体の概要 (N G O / N P O 用)

団体名 河川環境健康問題研究所

所在地	〒 8 8 0 - 0 2 1 1 宮崎県宮崎郡佐土原町大字下田島 1 9 6 5 7 TEL: 0 9 8 5 - 7 3 - 3 1 2 3 FAX: 0 9 8 5 - 7 3 — 2 9 0 1 E-mail:		
ホームページ			
設立年月	1 9 9 5 年 4 月 * 認証年月日 (法人団体のみ) 年 月 日		
代表者	富士持吉人	担当者	富士持吉人
組 織	スタッフ 3 0 名 (内 専従 2 名) ----- 個人会員 1000 名 法人会員 名 その他会員 (賛助会員等) 名		
設立の経緯	代表者富士持吉人は、9 5 年宮崎県公立学校を定年退職した。教え子や友人知人から「研究を継続しよう」という意見があり、民間活動団体として「河川 環境 健康」をテーマに、元 N H K (東京) 教育部長、元教師や公務員、医師、看護師等と連携して研究を継続した。		
団体の目的	環境の時代といわれる 2 1 世紀、開発が遅れたのが幸いして宮崎には多くの自然が残っており、日本や地球の財産にもなり得る。 異年齢、異業種の団体や個人が連携して、宮崎の「豊かな自然を体感し、環境保全の感性を高め、人間の生き方と重ね実践できる人材」を育てることを目的とする。		
「団体のかつどうプロフィール	95 年 一ツ瀬川水系の「地層・森・川・海岸」の実態調査を始める。 ¥ 97 年 佐土原町環境保全対策協議会委員「学識経験」に委嘱される。 99 年 異業種活動団体：「地層の名称：佐土原四万十会」を結成、00 年専門家集団：「アカウミガメの産卵地を育てる会」を結成、00 年「日向灘海岸侵食実態調査会」を「国・県・市・町に提案」、合同で調査会を「夏と冬の毎年 2 回」開催している。 01 年 日向灘サミット発足、「年 1 回 1 日大会」を開催、県民に啓発 02 年 九州環境ボランティア会議開催、「年 1 回、1 泊 2 日」、03 年「環境ボランティア会議・師弟ネットワーク宮崎」を結成して 日向灘と九環ボランティア合同会議《2 泊 3 日子ども環境会議》を宮崎大学農学部・南九州大学・田野町教育委員会と共催した。 04 年 第 4 回九州子ども環境サミット「子ども中心の 2 泊 3 日」開催 学校と連携：子どもたちと環境調査活動も始めた。		

活動事業費 (平成 15 年度 4 . 2 0 0 . 0 0 0 円

政策のテーマ

師弟ネットワークによる「九州子どもサミット」で人材の育成

- 政策の分野
- ・
- ・ 環境教育・環境学習
- 政策の手段

団体名：河川環境健康問題研究所

担当者名：富士持吉人

政策の目的

地域でも学校でも職場でも、年齢を超え職種を超えて環境保全活動の取り組みが求められている。次世代のために、本気になって環境保全活動に取り組み行動していただくために「感性度の高いリーダーを養成する」ことを目的とする。

背景および現状の問題点

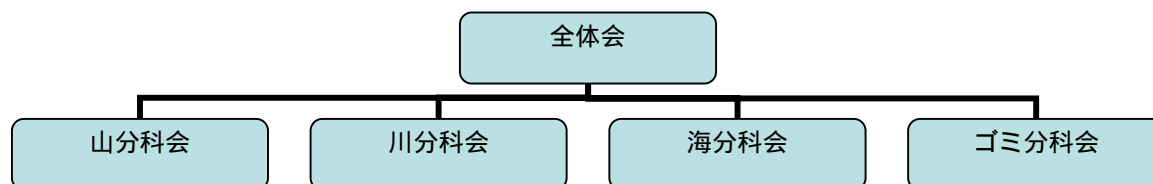
戦後日本の教育は、「記憶とペーパーテスト」で評価した。その結果、いざ、環境活動とすると「どのように行動して良いのか分からない」というのが現状である。このことは、教師個人の資質という捉え方もあるが、それよりも、「戦後日本の教育の在り方」に起因する構造的な問題点と言える。

政策の概要

- ・ 2泊3日なら「一定の成果」が期待される。
自然体感活動を基本にした環境保全活動の感性を高める環境教育活動は、2泊3日で実施する。
- ・ 03年、04年「第3・4回2泊3日」の成果
03年は宮崎市のほか、「西都市の古墳時代の自然環境」「綾町の世界遺産希望の照葉樹林」「青島の特別天然記念物」などの自然観察会にも九州各地から幅広く参加した。
- ・ 04年は、「延岡市役所がゴミ分科会」を担当した。その結果、行政の目線から見た「市民の環境に対する意識」がどの程度なのか明確に子どもたちに伝わった。南九州から参加した子どもたちは、南九州大学で大学の施設や教育内容などを学び、進路指導の参考にもなった。
- ・ 05年の県南会場は、南九州の子どもたちを対象に、霧島屋久国立公園を中心に4会場で開催する。
- ・ 社会を構成する「異年齢参加の成果」が子どもの心を育てる
参加者は、「小・中・高・大・大人」を中心とするが、保育園児や幼稚園児の希望もあり、04年は「幼児たちも24名が特別参加した」。その結果、小学生に先輩としての自覚が芽生えた。
04年の全体会で会員の意見を聞いた。03年は小学生が一番若かったが、04年は保育園児と幼稚園児が参加したので雰囲気が変わった。小学生たちが、「小学生は先輩」「中学生は大先輩」「高校生は超先輩」という。その様子を見ていた大学生たちが、「私たちは学生と思っていましたが、小学生の意見を聞いて改めて自分たちのおかれている立場を自覚しました」と感想を述べた。
- ・ 参加者の「自己評価」に心の表現がある
03年は、感想文か絵に描いたが、04年は、グループで「壁新聞」にまとめ、個人の自己評価は「原稿用紙」にまとめた。福岡から参加した幼稚園児の文字はたどたどしいが、真剣に取り組んだ様子が表現されている。初日「かんきょうかいぎのはじまり」、中日「・・・いろんなはっぱがわかりました」、最終日「・・・をまとめてみんなでかみにかきましたがいぶんはみているだけでした」。
- ・ 子どもたちは「親の保護」で生活しているのでお金がない
子どもたちがどんなに未来のことを考えても、「参加費がなかったら参加できない」のが現実である。主催者はその度に「不公平を作り出していると悩む」のである。世話をする大人たちが、はじめは理解するが、「継続には負担が重すぎる」という声も多いのも現実である。

政策の実施方法と全体の仕組み（必要に応じてフローチャートを用いてください）

第5回九州子ども環境サミット



政策の実施主体（提携・協力主体があればお書きください）

第5回九州子ども環境サミット

- ・実行委員会は「環境ボランティア会議・師弟ネットワーク宮崎」を主体に組織する。師弟ネットワークは、県央支部・県北支部・県南支部があり、県内のネットワークである。
- ・第5回大会は、59年以来の教え子や友人知人と積み上げた、UN—NGO国際会議や大淀川サミットを立ち上げた経験を活かし開催する。
- ・第1・2回大会は「1日日大会」として開催した。子どもの体験発表や専門家の意見発表から、生き物のシンボル・アカウミガメとその産卵地(海岸問題)が目に見えて分りやすい教材であった。
- ・02年には、「水俣病を教訓に九州環境ボランティア会議」を開催した。参加した九州の子どもたちが「九州で連携したい」日向灘サミットとセットして「第3回九州子ども環境会議」を開催した。
- ・第3回大会は2泊3日で宮崎大学農学部、南九州大学、田野町教育委員会と共済した。
- ・連携は、宮崎市・西都市・佐土原町・綾町、首長さんは激励の挨拶や現地を案内した。
- ・協力団体は、NGO/NPOなど数団体が実行委員として参加した。
- ・第4回は470名、延岡市、南九州大学、九州保健福祉大学、宮崎県教育委員会と連携した。

政策の実施により期待される効果

- ・期待される効果1 参加し、感動することで「心」が育つ
自然体感活動に参加し、「自然を体感する」ことで「環境保全の感性」を高めることができる。
- ・期待される効果2 本物の自然に触れ「自分が自然の一部であることを知る」
自然を知ることと自然と触れ合い「感性を育て」、心が変化する。
- ・期待される効果3 自然を知ることと「人間の生き方」を考える
自然の中では「自然が人間に語りかける」ようになり、自然との付き合い方を知ることができる。
- ・期待される効果4 自然にはたらきかけることで「自然」が育つ
自然の語りかけを受け止めて、本物の環境保全活動の実践につなぐことができる。

日向灘海岸は二つの日本一

日向灘は「アカウミガメの産卵地日本一」を誇った。その海岸に異変が起こったのは75年ごろからだ。95年に現地調査をしたら、砂浜が「20年に100m」侵食されていた。環境省に2回視察してもらった。結論は「国土交通省に相談してください」ということだった。

03年から夏・冬2回現地調査を実施している。日向灘海岸はアカウミガメの産卵地は絶滅して、「海岸浸食日本一」の記録を更新しながら、海が民家に迫っている。03年、環境省、国土交通省は複数の専門家が7月26日夜のアカウミガメ・コアジサシの生息する海岸に感動した。その海岸が、04年6月海になり亀も鳥も姿を消した。03年の第8分科会会場の海岸も04年海になった。

04年、九州子ども環境サミット前に国土交通省と日向灘海岸侵食実態調査して成果を活かした。日向灘海岸は、「現場主義の重要性」を認識することができる最高の教材になる。

その他・特記事項

03年第3回九州環境ボランティア会議
子ども環境会議参加者にプレゼントした
記念品「詩吟のCD」の一部です。

偶成
富士持吉人

我が国の歩みの半世紀をたどり見る
物と金とに目を向けて心も四膳も失る
翻って憂う習俗の浮薄に流るるを
能く環境の保全は幾人がある

〔通釈〕

戦後日本は半世紀にわたり物と金の
時代をすこしいつの間にか
『心も自然』も失った
思えば風俗は次第に浮薄（あさはか）
になり振返ってみたら物と金の
ことを中心に生活してきた
結果でもあった
このような時代にも『環境のことを
考える人』は幾人か
おられるでしょう
みなさんと共に次世代のために
『環境保全の活性化』を
啓発してゆきましょう